

|                   |  |  |          |         |              |          |              |          |
|-------------------|--|--|----------|---------|--------------|----------|--------------|----------|
| 授業科目名             | 【G】<br>【H】   | 刑法(各論)I<br>刑法(各論)I   | 区分<br>選択 | 開講年次    | 【G】2<br>【H】2 | 単位数      | 【G】2<br>【H】2 |          |
| 科目区分              | 専門科目   |  |          |         |              |          |              |          |
| 授業形態              | 対面授業   |  |          |         |              |          |              |          |
| 担当形態              | 単 独  |  |          |         |              |          |              |          |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 |  |  |          |         |              |          |              |          |
| サブタイトル            | 刑法各論(前半部分)   |  |          | 担当者     | 百花草 浩治       |          |              |          |
| 授業概要              | 【概要】   | 刑法各論(前半部分)の基本的かつ重要な解釈論上の諸問題を講義する。<br>なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。 |          |         |              |          |              |          |
|                   | 【到達目標】   | 刑法各論(前半部分)の基本的かつ重要な解釈論上の諸問題について、正確に理解できること。  |          |         |              |          |              |          |
| 履修条件              | 特になし。ただし、第1回目の講義には必ず出席すること。  |  |          |         |              |          |              |          |
| アクティブラーニングの方法     | 【－】  | 事前学習型  | 【－】      | 反転授業    | 【－】          | 調査学習     | 【－】          | フィールドワーク |
|                   | 【○】  | 双方向アンケート   | 【－】      | グループワーク | 【－】          | 対話・議論型授業 | 【－】          | ロールプレイ   |
|                   | 【－】  | プレゼンテーション  | 【－】      | 模擬授業    | 【－】          | PBL      | 【－】          | その他      |
| ディプロマ・ポリシーとの関連性   | DP(ディプロマ・ポリシー)①  | ◎ (よく当てはまる)  |          |         |              |          |              |          |
|                   | DP(ディプロマ・ポリシー)②  | － (当てはまらない)  |          |         |              |          |              |          |
|                   | DP(ディプロマ・ポリシー)③  | ○ (やや当てはまる)  |          |         |              |          |              |          |
|                   | DP(ディプロマ・ポリシー)④  | － (当てはまらない)  |          |         |              |          |              |          |
| 他科目との関連性          | 【刑事法関係の開講科目】刑法概論を受講のうえ、刑法(総論)I・II、刑法(各論)I・II、刑事訴訟法I・IIを受講されたい。ただし、その順序は問わない。ほかに、情報法I、特殊講義(特別刑法I・II)、特殊講義(刑事政策)と講義内容において密接に関係する。  |  |          |         |              |          |              |          |
| 教科書               | 特に指定しない。   |  |          |         |              |          |              |          |
| 参考書               | 伊東研祐『刑法講義各論』日本評論社、只木誠『刑法各論』新世社、西田典之『刑法各論』弘文堂、山口厚『刑法各論』有斐閣、松原芳博『刑法各論』日本評論社、井田良『講義刑法学各論』有斐閣、大塚裕史ほか『基本刑法II各論』日本評論社、前田雅英『刑法各論講義』東京大学出版会、松宮孝明『刑法各論講義』成文堂、佐久間修ほか『刑法基本講義総論・各論』有斐閣、島伸一(編)『たのしい刑法II各論』弘文堂、亀井源太郎ほか『刑法II各論』日本評論社、井田良ほか『刑法各論』弘文堂、仲道祐樹ほか『刑法の通説』日本評論社<判例解説本>成瀬幸典ほか(編)『判例プラクティス刑法II各論』信山社、『刑法判例百選II各論』有斐閣、山口厚ほか『判例刑法各論』有斐閣、井田良ほか(編)『刑法各論判例インデックス』商事法務、十河太郎ほか『刑法判例50各論』有斐閣【最新の版】など |  |          |         |              |          |              |          |
| 評価方法              | 小テスト[複数回実施]の合計点で評価する。  |  |          |         |              |          |              |          |
| フィードバック方法         | ①小テスト実施後に、全体的な状況についての「講評」を公開する。<br>②講義内容に関する質問等は随時、受け付ける。必要に応じて、講義でもそれに触れる。  |  |          |         |              |          |              |          |
| 評価基準              | 原則として、少なくとも10回以上の「出席」を単位認定の前提とする。上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを全く受けていないなど評価不能な場合には「F」とする。  |  |          |         |              |          |              |          |

| 授業科目名 | 【G】  | 刑法(各論) I | 区 分 | 開講年次 | 【G】2 | 単位数 | 【G】2 |
|-------|--|----------|-----|------|------|-----|------|
|       | 【H】  | 刑法(各論) I | 選 択 |      | 【H】2 |     | 【H】2 |
| 授業回数  | 授業内容   |          |     |      |      |     |      |
| 1     | イントロダクション:講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する。生命・身体に対する罪(1) 概説。<br>予習: 井田良『基礎から学ぶ刑事法』を再読する。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。   |          |     |      |      |     |      |
| 2     | 生命・身体に対する罪(2) 人の始期と終期、自殺関与罪・同意殺人罪<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。   |          |     |      |      |     |      |
| 3     | 生命・身体に対する罪(3) 墮胎罪、人工妊娠中絶<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。  |          |     |      |      |     |      |
| 4     | 生命・身体に対する罪(4) 遺棄罪<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。   |          |     |      |      |     |      |
| 5     | 生命・身体に対する罪(5) 暴行罪・傷害罪<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。   |          |     |      |      |     |      |
| 6     | 生命・身体に対する罪(6) 業務上過失致死傷罪など<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。   |          |     |      |      |     |      |
| 7     | 生命・身体に対する罪(7) まとめ<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。   |          |     |      |      |     |      |
| 8     | 自由に対する罪(1) 概説<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。   |          |     |      |      |     |      |
| 9     | 自由に対する罪(2) 脅迫罪・強要罪・逮捕監禁罪・略取誘拐罪・人身売買罪など<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。  |          |     |      |      |     |      |
| 10    | 自由に対する罪(3) 性的自由に対する罪① 概説<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。  |          |     |      |      |     |      |
| 11    | 自由に対する罪(4) 性的自由に対する罪② 近時の法改正について<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。  |          |     |      |      |     |      |
| 12    | 自由に対する罪(5) 住居侵入罪<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。  |          |     |      |      |     |      |
| 13    | 秘密および名誉に対する罪、特に名誉毀損罪<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。  |          |     |      |      |     |      |
| 14    | 信用および業務に対する罪、特に業務妨害罪<br>予習: 参考書の該当ページ、配布資料を読む。 復習: 講義内容の確認。参考書の該当ページ、配布資料を再読する。  |          |     |      |      |     |      |
| 15    | 最後の小テスト、全体のまとめ<br>予習: 参考書・配布資料全体を改めて再読する。授業ノートの確認。 復習: 参考書・配布資料全体を改めて再読する。授業ノートの確認。  |          |     |      |      |     |      |
| その他   | 各自の参考書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。【受講上の注意】正当な理由のない、遅刻および途中退室後の再入室は認めない。私語、携帯電話の使用は禁止する。その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。授業ごとの予習・復習時間は、各90分程度を目安としてください。 |          |     |      |      |     |      |